

令和6年度 第6回社会教育委員会 会議録

開催日時	令和7年3月28日 金曜日 13時30分から14時50分まで
開催場所	二宮町生涯学習センターラディアン ミーティングルーム1
出席者	和田智司教育長、久保田秀実委員長、橋本由恵副委員長、石黒賢路委員、市川葉子委員、稲葉通隆委員、関口金由紀委員
欠席者	中西美保委員、三宅栄子委員
事務局	椎野教育部長、山下生涯学習課長、二見生涯学習班長、井上スポーツ推進班長、込山図書館班長
その他	傍聴者0名

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 題

(1) 生涯学習課事業について

(委員)

2月2日のスポーツチャレンジだが、会場が町立体育館ということで交通の便が良くないと参加者が感じたようである。その点について、何か意見はあったか。

(事務局)

アンケートをとったところ、「車で行ける場所が良い。」という意見があった。将来的に小学校区単位での開催を目指している。

(委員)

アンケート結果では、「良かった」という意見が多かったということだが、種目についてどういったものをして欲しいや、ここを改善してほしいといった意見はあったか。

(事務局)

全般的に「楽しかった」という意見が多かった。会場については幼稚園や保育園でやってほしいという意見もあった。

(委員)

スポーツチャレンジについては、定員は想定していたか。また、インスト

ラクターのような方は何人いたか。

(事務局)

定員は設けていない。インストラクターは、スポーツ推進委員が14名体制で運営し、6種目を行った。

一人が6種目を行うのに20～30分程度かかった。スポーツ推進委員が上手く子どもの気持ちを盛り上げてくださり、最初は嫌がっていた子どもが同じ種目を何度もやっている様子も見られた。

この事業の目的は子どもたちがスポーツに触れるきっかけをつくれたらよいと考えているので、ノウハウが蓄積してきたら、小学校区単位で行うなど事業展開をしていければ良いと考えている。

(委員)

事業の規模と対応できる人数のバランスもあるが、子育て・健康課など横断的な取組となると良いと思う。

(事務局)

学校運営協議会など、学校区単位が重要になっており、そこで人と人とながつながり、新たな動きになると考えている。その中で、来年度は、放課後子ども教室も試行的に土日を開催することを考えている。保護者に参加してもらうことで、自分の子ども以外の子どもと顔見知りになっていくなど、そういった所と絡めていくことも良いと考えている。

(委員)

ニュースポーツもそうだが、器具の貸し出しが気軽にできると良い。

(事務局)

先日、緑が丘地区にスポーツ推進委員の派遣という形で、器具の貸し出しを行った。

(委員)

広報誌で、こんな器具があるという紹介があると良いと感じた。

子ども会事業の「そらとぶ教室」は全学年が対象とのことだったが、参加者の内、どの学年が多かったか。また、保護者も参加できたのか。

(事務局)

学年別の人数は把握していないが、参加者は低学年が多く、学年が上がる

につれ、人数は減っている印象だった。

事業の対象は小学生だが、保護者も一緒に参加した親子もいた。

(委員長)

スポーツチャレンジで、スポーツ推進委員が指導者を務めたとのことだが、スポーツ推進委員からの感想などは何かあったか。

(事務局)

スポーツ推進委員も子どもと接することが好きな方が多く、楽しかったという意見があがっている。

子どももチャレンジが成功するとキラキラした表情を見せてくれていた。

幼稚園や保育園にはチラシを配布したが、あいにくの天気であった。スポーツフェスティバルからどの程度成長したかが確認できるよう、この季節に実施していきたい。

(2) 令和7年度生涯学習課に係る重点施策事業について

(委員)

ミーティングルームなど大規模改修工事中は利用できなくなるのか。

(事務局)

休館中は利用できなくなる。

(委員)

駐車場やテニスコートはどうなるか。

(事務局)

これから実施設計を行っていくが、外壁も修繕をするため、駐車場は使用できなくなる見通しである。テニスコートについては、使用できるように検討する。

図書館についてもネット予約で貸し出しができるよう検討している。

(委員)

ホールの天井以外にも床など傷んでいるところもあると思うが、そういったものの対応はどうか。

(事務局)

これから実施設計であるため、どこまでできるか分からないが、安全性を高める

ということと、長寿命化がメインとなる。

(3) 令和7年度社会教育委員会議年間計画について

質疑等なし

(4) その他

- ・旧山川家住宅の国登録有形文化財の登録について
- ・地区研究会報告
- ・休日放課後子ども教室について

(委員)

放課後子ども教室は、各校の実施形態が様々であり、休日開催についての受け止め方ややり方が変わってくると思う。町全体で子どもの数が少なくなっており、放課後子ども教室単独というよりは、地元の子育て団体と一緒にやる形は良いと思う。

(委員長)

子ども会やPTAの役員との情報交換はしているか。

(委員)

皆知っているメンバーなので、連絡を取り情報交換はしている。

ただ、PTAの形態が大きく変わってきていて、活動縮小や委員の減少が生じている。

(委員)

元町北地区では、二宮中学校のPTA組織が変わった影響で、PTA役員が5名だったのが来年度からは2人になる。そのため、地区の活動について、中学校のPTAを外した。小学生でも子ども会に入っていない世帯があるので、地域との関係性が希薄になってしまうのが心配である。

(委員)

防災管理について、特に初期段階では、町にいる人で災害対応しないといけないので、中学生の力は必要である。防災訓練をしないといけないが、どのようにしたら参加できるのか課題である。

(委員)

全校がコミュニティ・スクールになっているので、そこがもう少し機能したら良いと思っているが、共働き世帯が80%を超えていて、引き受ける方が限られてい

る。

また、お互いの団体を知らない事も大きいと思う。横断的に連絡を取り行動しようとしても、誰が決定権を持っているのか曖昧になっているので、話が進まないこともある。もう少し団体同士でコラボするなど、お互いの活動に参加できたら良いと思う。

(事務局)

生涯学習課としては、多様な学びで繋がることを目指している。ここで二宮町では、「二宮町子ども計画」ができ、来年度を「こどもまんなか元年」としている。徐々に青少年指導員、スポーツ推進委員、子ども会とのコラボもやり始めているので、単独では難しかったことも今までと違う方向性が見えてくるのではないかと考えている。

(委員)

大人が全て決定するのではなく、子どもたちが主体的に考え、結果を出し、次に繋げる仕組みを増やすことが重要である。

(事務局)

夏休みの放課後子ども教室には、中学生が来てプログラミングの講師等をやってくれているので、地域学校協働活動推進員の負担を抑えつつ、今後も子どもたちの主体性を大事にしていきたい。

11月に東京大学果樹園跡地で行った野外研修では、子どもたちが主体となりカレーを作っていて驚かされた。

(委員)

町民大学講座は大人向けだが、子どもたちが力を活かせる場があると良いと思う。

(委員)

小中一貫教育になっているのだから、学童なども中学生が面倒を見るような形でも良いと思う。

(委員)

放課後子ども教室等において、産学官連携のように高校生や大学生が参加できるような仕組みを取り入れることが望ましい。教育関係や保育関係を目指す学生の中には、にのみや子ども自然塾のイベントに自主的に参加している方もいるので、人材がいけない訳ではなく、発掘の仕方なのではないか。

(委員)

世代が違っていても交流できるというのは、参加する子にとっても将来役立つことだと思う。

(事務局)

今の青少年指導員にも、元々中学生サークルの「恵友会」や「二宮町シニアリーダーズクラブ」で活躍されていた方が2名おられる。上手くサイクルができると持続可能なものになっていくのではないかな。

(委員)

大きくなって二宮町に残る人もいるので、小さい時から繋がっていくと将来、町の活性化に繋がっていくと感じる。

(委員)

防災に関する中学生の話で、実際の火災等を経験していないため、危機感を持ちにくい状況にある。また、防災訓練は形式的に進行することが多く、具体的な行動が明確でない場合もある。ただし、子どもの人数が減少したことで、意識改革は以前より進めやすい状況にある。二宮町として理想的な方向へ進むため、何か発信ができると良い。また、子どもは情報収集が大人より優れていると思うので、大人も勉強しながら子どもと成長していける形になれば良いと思う。

(事務局)

小中一貫教育がスタートしている中で、小学校同士の交流がある。一色小学校の友情の山で、山西小学校の子どもを呼んで、学年ごとにおもてなしをして、中学校へ行ったときに一緒にいる子もいるから顔を忘れないで中学校を楽しみにしようという事があった。少しずつ定着してくると、他の子がイベントに参加するから出てみようかなとなると思うので、将来的に、にのみや学園として、二宮で生まれ育って良かったという話に繋がると思い、事業を進めている。

(委員)

小学校1年生くらいの子は、学校の垣根を越えてすぐに遊びだしていたので、小さい頃から一緒に仲間だよという意識がずっと続くと良い。

(委員)

緑が丘地区では、3割くらいの高齢者が地域の行事に参加してくれるが、それ以外の方は中々敷居をまたいでくれない。一歩が踏み出せていないので、小さいうちから同年代の子どもたちが集まってやるのは良いと思う。

(委員)

人を多く集めずにコアなグループでやった方がその子たちが良く見えるということもある。発達特性が小学生の頃から顕著に出てくるので、少人数で集まりその場で企画を考えるのも面白い。

近所に住んでいる障がい者の方と一緒にやろうとする小さい単位でのニーズがあるので、地域としても繋がっていったら良い。

(委員)

団体行動が苦手な子どももいるので、少人数で行うのもありだと思う。

4. 閉 会